

年 組 名前:

問1

新型コロナの感染症法の位置付けが「5類」に移行して1年が経ちました。以前と比較して、大幅に観客動員数が伸びたプロスポーツを教えてください。

問2

問1の回答のスポーツが、大幅に伸びた理由を2つ教えてください。

問3

コンサートプロモーターズ協会では、好調ではあるものの、どのような不安もあると話していますか。

問4

スポーツやエンタメなどで、あなたが行きたいと思うイベントを教えてください。

スポーツ、エンタメ 活況

チケット高騰 先行き不安も

新型コロナ5類移行1年

新型コロナウイルスの感染症法の位置付けが「5類」に移行して8日で1年。イベント中止や観客減に見舞われたスポーツ界やエンターテインメント業界に活気が戻っている。観客動員は堅調で、関係者は市場規模の拡大に手応えを示すが、チケット価格の高騰など先行きに不安も抱える。

プロスポーツで、コロナ禍前を超える観客を集め、勢いがあるのはバスケットボールのBリーグだ。収容数千人規模の会場がびっしりとファンで埋まる試合が目立つ。今季のB1は平均入場者数（4月28日時点）が4万5095人。コロナの影響が出る前の2018〜19年シーズンの3万078人を大きく上回り、全24クラブ中20クラブが1試合の最多入場者数を更新した。昨季の3万22万人が最多だった総入場者数（B2も含む）は、今季は400万人超の見込みだ。

昨夏の沖縄でのワールドカップ以降、競技への関心が高まったことが大きい。群馬、佐賀両県では地元クラブの本拠地となるアリーナが開業したことも、大幅な観客増につながった。島田慎二（チェアマン）はバスケットの魅力が浸透し始めているとし、「こんな（選手との）距離感が近いのかと感じる人もたくさんいる」と人気定着に自信をのぞかせる。

野球やサッカーのスタジアムにもにぎわいを取り戻した。「今年は過去最高の（観客数）数字を目指している」（野村芳和（チェアマン））というJリーグは4月21日時点でJ1、J2、J3の総入場者数が269万8232人。年間最多の1039万7482人の観客が詰めかけた19年の同時期と、遜色ない数字だ。

19年に過去最多の2653万6962人を記録したプロ野球の観客数は、コロナ禍の20、21年は人数制限などで1千万人を割ったが、声を出しての応援も解禁された23年は約2500万人まで客足が戻った。今年はそれ以上のペースで来場しており、日本野球機構（NPB）の井原敦事務局長は「順調に復活している」と話す。

音楽ライブの主催者らでつくるコンサートプロモーターズ協会によると、23年の市場規模は、動員数がコロナ禍前の19年との比較で13・7%増の5632万人。売上額は40・2%増の5140億円に達した。Kアリーナ横浜など大型ライブ会場の開業や、人気のKポップアーティストの大規模公演が増えたことなどが好調の背景にある。

ただ、ライブなどの公演数がコロナ禍前を上回ったのは関東、東海、関西の3地区に限られ、協会は「全国的な市場の回復には至っていない」と指摘する。

人件費や運送コストの上昇、円安の影響も重くのしかかる。スポーツ界でも一部でチケット価格上昇の傾向がみられる。海外アーティストの公演を主催する音楽関係者は「人員と機材の確保も難しくなっている。円安も大きな要因で、これらの要素をチケット代に反映せざるを得ない」と回復基調に水を差しかねないことを危惧した。

(2024年5月4日付 山梨日日新聞 17面)